



「モノ」語る



2014
巡回展



いいたてミュージアム

までの未来へ記憶と物語プロジェクト

いいたてまでの会

いいたてミュージアムとは、飯舘村のこと、飯舘村に起こったことを県内外に広く発信し、未来の世代へも伝えていこうというプロジェクトです。

村民のみなさんのお宅へお伺いし、みなさんにとっての「古いモノ」「大事なモノ」「歴史的なモノ」を見せていただき、それにまつわるお話を集めてきました。「モノ」にまつわるお話から見えてきたのは震災前の豊かな村の姿でした。

今回初めて福島県外での巡回展を行います。ご覧いただくみなさまに、「モノ」が語る力から、村の姿をお伝えできればと思います。

法政大学市ヶ谷キャンパス
外濠校舎 1階メディアラウンジ
〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

12月		OPEN 12.00-18.00				
木	金	土	日	月	火	水
11	12	13	14	15	16	17
			↓ 休み			

TALK



福島県相馬郡

飯舘村

飯舘村は、福島県阿武隈山系北部の高原に開けた豊かな自然に恵まれた美しい村です。

総面積230.13キロ平方メートルの約75%を山林が占めた地形は比較的なだらかで、北に真野川、中央に新田川と飯樋川、南部に比曾川が流れその流域に耕地が開かれ集落を形成しています。

年平均気温は約10度、年間降水量1,300mm前後で高原地帯独特の冷涼な気候にあります。

2010年10月には「日本でもっとも美しい村」連合への加盟を果たしました。



2014.5.20 飯舘村 手前の田んぼは草が生い茂っている



地理：東京駅から福島駅まで、新幹線で約1時間半、距離 270km ほど
福島駅から飯舘村まで車で一時間の位置

2014年の村民の避難状況

2014年10月1日現在、6,697人の村民のうち、県内避難者数6,156人、県外避難者数480人、飯舘村内居住者数59人（未避難者12人を含む）、不明者数2人。

県内9か所（福島市、伊達市、相馬市、国見町）の仮設住宅では、高齢者を中心に1,092人が生活しています。



旧明治小仮設住宅



まていととは
真の手（両方揃った手）が語源。
「手間ひまを惜みず」「丁寧に」
「心をこめて」「つつましく」とい
う意味で使われる方言

東日本大震災

2011年3月11日、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウンによる放射能飛散の被害により、事故から1カ月あまりを経た4月22日、懸命に被災者を受け入れていた飯舘村は、突然、計画的避難区域に指定され、5月末には全村避難に至りました。放射線量の高さゆえに6,000人あまりの村民は、丁寧に誠実に暮らしを紡いできた美しい村からの避難を余儀なくされたのです。



2014 除染の様子、地表は削られている。
集めた汚染土の最終処分場は決まっておらず、
村内の収集場所に汚染袋がぎっしりと詰め込まれている

いいたてミュージアム 2014 巡回展

問い合わせ

いいたてまでの会 事務局

IitateMadei Association

〒960-8031

iitate-madei.jp

福島県福島市栄町 10-3 キッチンガーデンビル3F

TEL : 070-5622-4982 FAX : 024-573-2414

MAIL : iitatemadei@gmail.com

TALK

飯舘村民の長正さんをお迎えして、震災前、震災後のそして、今の飯舘村のお話を伺います。

独自の村づくりを続けていた中で全村避難を余儀なくされた福島県飯舘村と、飯舘村の暮らしや文化を「モノ」の力を借りて発信していこうとする、いいたてミュージアムについてのトークです。

12 / 17

法政大学市ヶ谷キャンパス
外濠校舎3階 S305教室

時間 11:10-12:40 「メディアと社会」講義内

ゲスト 長正 増夫（飯舘村民・元副村長）

聞き手 稲垣 立男（法政大学 国際文化学部教授）

坂内 まゆ子（いいたてまでの会）